

質問 と 回答

	質問	回答
1	<p>第7講 手計算（入門）箇所 資料P44演習の&lt;精算法の場合&gt; 1階「短辺割増」が良く分かりません。例題を見ると2階短編は4.550で有るのに1.15の係数になるのが理解できないので教えてください。また1.36未満とはどこの数値なのかも併せて教えてください。</p>	<p>・精算法では2階の短辺割り増しは1階にかかります。 この例題では、2階の短辺は4.55mなので4~6mの割り増し係数1.15が1階にかかります。</p> <p>・1.36未満でなくて、1.3と6m未満は別行です。 短辺が4m未満のとき、短辺割り増し係数=1.3 短辺が6m未満のとき、短辺割り増し係数=1.15です。 これらは、建防協マニュアル「木造住宅の耐震診断と補強方法」のp29に書かれていますので、ご参照いただけますよう、よろしく願いいたします。</p>
2	<p>県の耐震改修事業者向け講習会のページにある質問及び回答欄の中で「令和3年質問7回答」と「令和2年質問7回答」（、「H30年 質問2回答」）は見解が異なるように思われます。補足を加えた統一解をお願いします。</p>	<p>「基礎がない」というご質問について、下記のような解釈のもと2通りの回答をさせていただきます。よろしく願いいたします。</p> <p>1. 「基礎がない」 = 「布基礎も玉石基礎も何もない」と解釈した場合 (回答) 基礎が存在しない場合はその上部にどんな壁を作っても耐震要素と見なすことはできません。かならず、いずれかの基礎ランクに相当する基礎を新設してください。</p> <p>2. 「基礎がない」 = 「布基礎がない、玉石・ブロック等の独立基礎はある」と解釈した場合 (回答) 玉石基礎、ブロック基礎に対応する基礎ランクIIIのままで弱い壁を分散配置し、目標評点を満たすような改修設計を行ってください。 →R2, R3の質疑についても修正いたします。</p>
3	<p>アルミアングルを鉄に変えて施工しても良いのでしょうか？</p>	<p>アルミアングルを鉄に変えると強度の上昇が期待されますが、壁の強度が上がるとN値が変わり、柱頭中柱脚に施工する金物の強度が不足することになります。鉄を使った仕様は実験していないので正確な壁基準耐力は不明ですし、施工にあたって鋼板を貫通させるビスが必要になるなど、不確定な点が多々あります。 現状では、実験を実施したアルミアングルの仕様でお使いいただければと思います。</p>